

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム「シュアー」
所在地 (県・市町村名)	岐阜県多治見市小名田町3丁目112番地
記入者名 (管理者)	根生 千里
記入日	平成 20年 5月 9日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関、1Fホール、事務所内、2F食堂に中心となる言葉を掲げている。理念全文は玄関に掲げている。また、毎月の通信にも書いている。広報誌を発行し、地域に約40部配布した。	○ 次号は新ホームへ移転後発行予定。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホール、食堂に掲げた理念を利用者さんが読み上げ、コミュニケーションを取っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎月の通信に載せ、家族の目に届くようにしている。広報誌は全て郵送せず手で配布している為、理念について行事について等話しながら伝えている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方との交流は深い。散歩中は利用者に声を掛けて下さる。野菜販売車で一緒に買い物をしたり、餃子の注文を取り、届けたりしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	独居宅、老夫婦宅に配食サービスを行っている。	○ 新ホーム移転後は、ホームで地域の方との交流会を開催する予定。内容としては3年余り取り組んできた学習療法を地域の方に広めていきたい、又、介護・医療・福祉についての相談会の行っていく予定。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生委員さんに地域の独居の方の様子を聞く。不定期で3名の方に手作りお弁当を作っている。	○	新ホーム移転後は生活空間が現在より広がるのでホーム主催の行事参加を呼び掛けていきたい。(食事作り、作品作り、体と頭の体操等を予定している)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はスタッフ全員で行っている。改善していきたい項目について担当を決めて少しずつ取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では出席者から意見が出る。スタッフ会議で報告している。地域の方の切実な不安、疑問を伺い、施設としてできることはないか全員で話し合ってきた。	○	緊急時の受け入れの可否について、市の意見を伺い実現の可能性を検討したい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	健康福祉政策課の職員に運営上の相談に乗ってもらっている。障がい児日中見守り事業の認可取得し、今年冬休みより事業運営する予定。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全体会議に行った。家族へは制度について文書で伝えている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフが高齢者虐待防止関連法について資料をまとめ全体会議で発表し勉強。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	平成21年度には当施設を会場として提供し、市の行事に協力の予定。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	初めて当ホームを訪問された方は経営主体やこれまでの経過を注目されている。ホーム紹介として予想される家族の疑問、質問について、ひと目で分かるようシートを作成予定。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療面での充実を希望しておられたご家族に、施設などを紹介し施設との連絡を密にし支援を行った。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	調整記録、利用者情報ノートに記載されていることを代表、管理者、主任などがまとめてスタッフに報告し、ご家族には毎月1回の通信、面会時、FAX、急ぎの時は電話などで報告、相談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人一人の気持ちを大切に、臨機応変に対応している。毎日の朝の会、回想法などの会話にて皆と一緒にお話をしながら昔の知恵を学んでいる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お盆、お正月などにご家族と住み慣れた場所で過ごして頂けるように、事前に往復葉書などで報告しご家族の計画をお聞きしている。面会時はゆっくりと話ができるように、自室にてくつろいで頂いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所前の家族との関係について利用者、ご家族にお話を伺い、双方の思いが理解できるよう努めている。ご本人が書かれた葉書などをご家族に送っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎日の会話にて馴染みの人、場所などの関係が続くように心掛けている。ドライブなどでは馴染みの場所に立ち寄るように努めている。家族写真を見やすいようにA4に引き延ばして各部屋に飾ってある、いつでも見られるようにA4サイズのアルバムがホールに置いてある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う者同士で楽しく過ごせるようにドライブの席、食事の席、散歩のメンバー等に配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	訪問したり電話や手紙にて様子を聞いたりして、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の性格等を考慮し、常にご家族に連絡を行い、スタッフとも話し合いを行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで過ごされていた環境など、家族に情報提供をして頂いている。ご家族の面会時に昔の話など聞いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者と1対1の時間を大切にしている。スタッフ一人一人が利用者の現状を把握できるよう、個別のファイルに情報をまとめてある。(センター方式採用)		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	運営推進会議、スタッフ間での会議等で色々な意見を出し合い、話し合いながら介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	今年度4月よりサービス実施記録、モニタリングの方法について、新たな様式を取り入れて行っている。管理者・主任を中心にスタッフの気づきを介護計画に立案し、常時微調整を行いながら生活支援を行っている。	○	介護計画の中に、家族が提供するサービス項目を加え、目標達成に向けて取り組めるよう、スタッフが支援を行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケアプランに沿ったケース記録の記入を実施。	○	記録の仕方に専門用語を交えて書くことに取り組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	季節の行事(お正月、お盆、誕生日等)や各家庭での行事に出掛けられるよう、通信・FAX・電話・手紙等で呼び掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	施設の行事に合わせてレクリエーションボランティアや学生の職場体験実習の受け入れを行っている。運営推進会議に出席して頂き、交流の場を大切にしている。		地域の皆さん(小学生から大人の方まで)が気兼ねなく立ち寄れる場所としていきたい。(平成20年8月頃新施設開業)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入退所時、地域のケアマネジャーや施設の相談員と連携体制を取っている。入所の紹介があった方について、その後の報告を行っている。(入退所の結果について報告を行っている)本人にあったサービス機関の紹介を行ってきた。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席してもらい話し合いの場を設けている。地域包括支援センター主催の行事に管理者が参加し手伝ってきた。(平成19年10月～平成20年3月)		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームから車で15分の場所にある病院の医師にかかりつけ医になってもらっている。必要時は往診も可能。	○	家族会で、主治医より終末期ケアの取り組みについて、話を伺う予定。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録時には個人名を書かず、スタッフ間で分かる方法で行っている。個人情報を外へ提供する時は、必ず本人・家族の同意を署名にて頂いている。プライバシー保護についてはスタッフ間で会議、勉強会で話し合い徹底して行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事、入浴、更衣、外出等について一人一人に合わせた声掛けを行っている。利用者に分かりやすいように説明や働きかけを行う時、言葉だけでなく身振り、文字を使用している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、おやつ以外の時間以外は利用者一人一人、自分のペースで過ごしてもらっている。利用者一人一人が得意なこと、やりたいことを見極め、日々一緒に生活している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時には洗面所誘導、洗顔、整容を行う。カットは必要に応じて行っている。歩行困難な方にはベッド上での洗髪、カットを実施している。ホーム内で美容師の免許を持つスタッフ、家族の了解を得てカットしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	春には近くの公園へ花見に行き桜の木の下で昼食会を開いたり、気候良い日には外でパーティー形式で行っている。(例:五平餅、田楽作り、豆腐作り等)野菜の皮むき、食後の下膳、食器拭きを利用者と一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	10時と15時のおやつは必ず誘い、利用者の好みを把握してその時々和菓子等を用意している。食後にはヨーグルトと果物、寒天ゼリーなどを取り合わせている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄リズムを把握することでポータブルでの排泄が可能となる。水分補給(起床時、朝食、10時おやつ、昼食、15時おやつ、夕食)6回で1,000cc以上飲んで頂くようにしている。お茶以外にも毎食30～50cc程のヨーグルトも提供している。水分補給することによって排便がスムーズになってきている利用者がいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	歩行可能な利用者には、タイミングに合わせて週2回は必ず入浴支援を行っている。週3回の入浴日と、必要時の入浴・シャワー浴を行うなど柔軟に対応している。歩行困難な方には浴室を暖めシャワー浴、又は全身清拭を試みている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	申し送りにより必要時はタイミングを見て昼寝等取れるよう支援している。車椅子の方は朝1時間、昼から1時間程度休息の時間を取るよう支援している。不眠時は温かい飲み物を提供したり、お話を聞いたり、体をさすったり等の工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌が好きな方、話しが好きな方、それぞれ自分から楽しみながら行って頂いている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お菓子を買いたいと言われた時は、スタッフが財布に小銭を入れ使ってもらっている。自分でお金の管理をし、自由に試してみえる方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほとんど毎日ドライブに出掛けている。又、利用者が歩ける距離を測り、外に出て少しでも足の力を付けることができるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と一緒に大切な人とのふれ合いを支援している。面会時ホーム内で過ごされる家族が多いが、利用者は外出を強く望んでいる。本人の希望を今まで以上に家族に伝え、散歩、買い物、ドライブ、外食の機会を持って頂けるよう働きかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	葉書の表書きはスタッフが手伝い、家族への思いを自分で書いた葉書を出している。家族から電話や手紙を下さるようお願いしている。利用者が定期的に家族へ手紙を出せるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、その他の方が訪問された時は湯茶のおもてなしをしている。利用者家族、知人の方は居室でお話をして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外に出たい利用者は外へ、寝たいと言われれば横になって頂くよう行っている。身体拘束を行ったことはない。身体拘束することの弊害について勉強会を行い学んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に錠をかけない時間を多くするように取り組んでいる。利用者が外に出たい時は、手の空いたスタッフがすぐに出られるように取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者が1F、2Fの居室にいる時は、スタッフは居場所を確認し様子が分かるように心掛けている。事故を未然に防ぐようにしているが、近所の方にもお願いし、安全に気を付けられるように取り組んでいる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品は手の届かない所、錠のかかる物入れ等に保管するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止対策マニュアルを作成している。消防署の火災訓練を実施し、救命講習を受講している。消防署の指導の元、6月に火災訓練を実施、ご近所の方にも参加頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成している。スタッフがすぐに駆けつけるよう、緊急連絡網を作成している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の方にお申し送り防災訓練を実施している。災害時マニュアルを作成している。防災用品を準備している。近所の方にも声掛けをし、防災訓練に参加して頂いている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一部の部屋の施錠、手作りベッド柵の使用について時間帯、理由を説明し、理解を頂いている。玄関の錠、台所の仕切、部屋の錠、ベッドの柵などについて理解を得ているが、繰り返し説明を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の体温・血圧測定、毎月の体重測定を行い、変化が分かるようグラフにして記録している。緊急時の連絡先がホーム内の2箇所には貼ってある。出勤スタッフにすぐに伝え、申し送りノートに経過を記入しスタッフに報告している。必要時に往診、受診、かかりつけ医に電話で相談している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の服薬目的、用法、用量等について全体会議で勉強。用法、用量が変わると、申し送りノート、個人ファイルに記入している。少しでも変化のある時は、バイタルチェックをしっかりと医に報告・相談をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘について会議、朝の申し送りで話しをし、水分摂取量、運動、スタッフによるお腹のマッサージを行っている。便秘になりやすい方の排便チェック表を作成し、記録している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、洗面所で歯磨きをして頂いている。一人一人の歯ブラシ、コップが用意しており、いつでも歯磨きできるように手の届くところに置いてある。義歯の方は、夜間ポリデントに浸けている。歯磨きのできない方はスタッフが支援したりお茶を飲んで頂いたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時・おやつ時の水分補給、外出・入浴後の水分補給、カロリー計算をしている。一人一人の体調、体格等に合わせた食事量を調整、色々な食品を少しずつ盛り付け、品目数を増やしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	年に1回(冬)利用者、スタッフ全員がインフルエンザの予防接種を受けている。手に触れるドアノブ、椅子、手摺り、タンス等は塩素消毒を心掛けている。嘔吐時、排便時にはスタッフがいつでも使用できるよう準備している。スタッフは排便の後始末等はマスクを使用している。調理、食事、おやつ等の前に利用者、スタッフ全員が両手をアルコール消毒している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具使用前にアルコール消毒を行っている。賞味期限は常に確認して使用するよう心掛けている。作り置き、残り物には日時を記入し、冷蔵庫に入れてある。ポット、台所、コンロ等は毎日掃除している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	階段には手摺りが付いている。ホーム周囲には季節の花を植えている。玄関マットが用意しており、月に1回交換してもらっている。玄関が分かりやすいように外に案内表示がある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光の調節ができるよう、窓には全てカーテンがある。音が漏れないよう、扉・板などで1箇所ずつ仕切がある。季節の花、季節の行事(正月、節分、お雛様等)各月の行事にあったディスプレイをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1F、2F、居室でテレビ、音楽を楽しめるようになっているので、好きな場所で過ごして頂ける。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用している馴染みの物(タンス、テレビ、敷き布団等)が各部屋に置いてある。花の好きな方はスタッフと一緒に水やりをし、管理している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気候に応じて除湿器、加湿器が使えるようにしてある。消臭スプレー、花、お香などでおおいに配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩ける利用者さんは階段の昇降をしてもらい、自分の足で来てもらう。歩けてもなかなか昇降できない方は手助けするようにしている。動けない利用者には入り口を開け、少しでも外の様子を見て(通学時の子供達の声の聞いたり、花を見たりして)頂いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人のペースに合わせて、自分なりの能力を活かして自立できるよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの外周の一部で団子焼き、田楽作りなどを利用者と一緒に実施している。花などの水やり、掃除などもしている。自分で種をまき、大きくなったら収穫し、食事に取り入れている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

くもん学習療法を初めて3年になります。1対1の関わりが持て、コミュニケーションを取る大切な場となっています。どの利用者さんもとても喜んで臨まれます。10時のおやつ時間に、強制的でなく自由参加の朝の会を行っています。新聞の内容を話題にしたり、旬の食べ物、歴史、全国の行事の紹介等をし、会話が弾みます。四季を通しホーム内の花を絶やしたことがありません。花の好きなスタッフが持ってきて利用者さんと一緒に生けたり、玄関先の花と一緒に摘んで飾ったりしています。